

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	田代町立田代小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	17	26	25	32	32	28	0	160	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を育む指導法の研究
～算数科を中心とした教育方法改善をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1年生・算数
「楽しく学び合う授業」の在り方の研究を推進するため。
- ・4年生・算数
学力定着はある程度あるものの、学習意欲や学習態度の面での変容をめざしたかったため。
- ・6年生・算数
学力定着において個人差が大きく、指導法での改善が必要だったため。

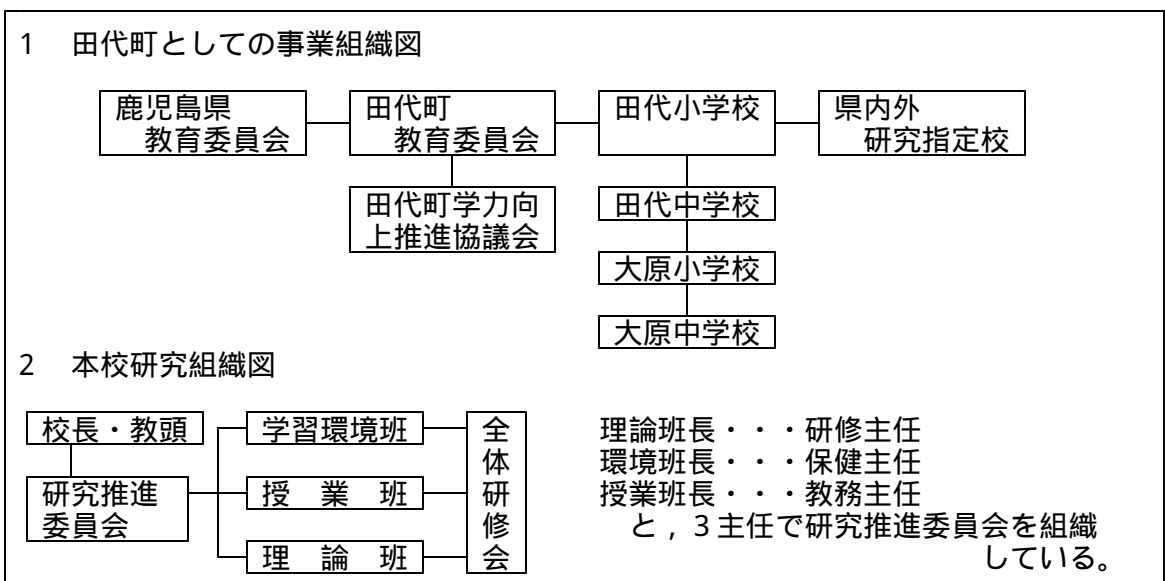
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力を育む指導法の研究 ～算数科を中心とした教育方法改善をめざして～</p> <p>研究の見通し</p> <p><仮説1> ・基礎的な学び方や生活習慣を身につけさせれば、学力の向上につながるのではないかと。</p> <p><仮説2> ・自己評価を工夫し、発展的指導を取り入れることで学ぶ意欲を育てることができるのではないかと。</p> <p><仮説3> ・友だち同士で学び合う機会があれば、わかる喜びを味わうことができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 学習の意欲・態度に関する調査 ・日々の授業において必要となる項目をアンケート形式で実態を調査し、各学級における学び方の方法を研究した。</p> <p>(2) 学力検査の考察と指導法の研究 ・CRT結果を分析し、それをもとに重点指導項目を抜き出す作業を行う。</p> <p>(3) 評価規準の見直し ・評価規準を、日々の授業実践から見直し、加除修正を加える。</p> <p>(4) 授業実践を通じた研究 ・各学年で、授業仮説を検証するため、学年の実態に応じて指導法の工夫を行っていく。</p>
--------	---

- (5) 学力検査の実施
 - ・C R T 及び、自校作成の算数テストを実施し、本年度の研究の考察及び、平成16年度の研究の方向性を探る。
- (6) 読書タイムの設定
 - ・落ち着いた学習環境を整えるために、火曜日から木曜日の朝15分間を全校で読書をするようにした。
- (7) 保護者との連携
 - ・「家庭学習の手引き」を作成し、P T A 総会や学級P T A 等で啓発に努め、協力を要請した。
- (8) 中学校との連携
 - ・隣接中学校との連携を図り、お互いに授業参観（授業研究を含む）や意見交換会を定期的に行い、共通実践等についての話合をもった。

平成16年度	<p>テーマ 子どもたちが充実感をもつための算数科の授業 研究の見通し <仮説1> ・自己評価を授業に取り入れ、それをもとに個々に応じた学習場面を取り入れれば、子どもたちに確かな学力を身につけさせられるのではないか。 <仮説2> ・「発展的、及び補充的な学習」を積極的に授業に取り入れていけば、個々の子どもたちに確かな学力をつけさせられるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 個人カルテや自己評価カードをもとにした授業実践 <ul style="list-style-type: none"> ・個人カルテや自己評価カードを作成し、個々の学力の実態を教師が把握し、それをもとに指導計画を作成していく。 (2) 「発展的な学習・補充的な学習」理論の体系化 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業実践を通じた研究の中で、それぞれの学習方法がもつ意味を本校なりに体系化していく。 (3) 単元レベルでの指導計画の自校化 <ul style="list-style-type: none"> ・より個々に応じた指導ができる指導計画を作成し、本校なりの実践化を図っていく。 (4) 発展的な学習教材の累積 <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習内容を、学年ごとに授業を通して研究を積み重ね、本校独自の教材開発をしたい。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 1 仮説1（基礎的な学び方や生活習慣を身につけさせれば、学力の向上につながるのではない）から
 - (1) 全校での実態調査をもとに作成した「学習の手引き」を使い、各学年がそれぞれの「落ち込み」を意識しながら実践を積み重ねた。その結果、
 - ア 授業前にはその学習の準備を済ませておく。
 - イ 線引きは定規を使って行う。
 - ウ 発表者の方を向いて発表を聞く。
 - エ まちがいは消さずに、赤鉛筆で訂正する。という点について、改善が図られた。
 - (2) 小・中一貫で「学習のきまり」を作成し、連携しながら実践を行うように共通理解した。
- 2 仮説2（自己評価を工夫し、発展的指導を取り入れることで学ぶ意欲を育てることができるのではない）から
 - (1) 「ふりかえり（自己評価）」を、定期的にノート記録を継続させたところ、児童が、自分の力を客観的に捉えるようになり、次時の学習への期待感が高まった
 - (2) 本校なりに、1単位時間内での自己評価の時間設定と「発展・補充」学習についての研究が深まり、次年度への展望が見られた。
- 3 仮説3（友だち同士で学び合う機会があれば、わかる喜びを味わうことができるのではない）から
 - (1) 学力向上につながる「意図的な場の設定」を、算数科の指導課程に取り入れ、自校化を図れた。

2. 今後の課題

- 1 「個に応じた指導」が明確に出た1単位レベルの指導計画をどう作成していくか。
- 2 発展的な学習・補充的な学習を、それぞれ本校なりにどう理論化していくか。
- 3 家庭・地域との連携の深化と地域ぐるみの学力向上をどう構築していくか。

学力等把握のための学校としての取組

- 1 ハッピーライフ
 - (1) 調査の目的
児童の日常生活面での改善が図れているかという点を中心に実態把握及び保護者への啓発をめざす。
 - (2) 実施内容
あいさつ、排泄、就寝時間等、日常生活全般に渡る項目について、継続して児童と保護者が一緒にチェックしていく。
 - (3) 時期
長期休業中及び月1回
- 2 家庭学習に関する調査
 - (1) 調査の目的
各家庭における本校の学力向上に関する取組の評価と各家庭での家庭学習の実態把握
 - (2) 実施内容
本校の学力向上に関する取り組みをどう評価しているのか。または、各家庭での学力や家庭学習に関する悩み等を問う。
 - (3) 時期
10月

- 3 学力向上に関する調査
- (1) 調査の目的
各家庭における本校の学力向上に関する取り組み評価と各家庭での家庭学習の実態把握（上記の追調査）
- (2) 実施内容
本校の学力向上に関する取り組みをどう評価しているのか。または、各家庭での学力や家庭学習に関する悩み等を問う。
- (3) 時期
2月末

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 町学力向上推進協議会での発表
- (1) 日 時 平成15年12月17日
- (2) 場 所 町教育委員会
- (3) 対 象 小・中各校フロンティアスクール担当教諭・校長・保護者代表・及び教育委員会
- (4) 目 的 これまでの実践発表を行い、会員・保護者等から幅広い意見を集約し今後の研究の展望を図るため
- 2 研究公開の開催
- (1) 日 時 平成16年12月9日
- (2) 場 所 本校及び田代中学校
- (3) 対 象 県内教職員
- (4) 目 的 これまでの研究の成果を発表し、研究の反省と今後の研究の展望を図るため
- 3 学校便り、町の広報誌での保護者、地域への情報提供

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | |
|----------------------|---|--------------------------|--------------------------|
| 【新規校・継続校】 | レ | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | レ | 6学級以下
13～18学級
25学級 | 7～12学級
19～24学級 |
| 【指導体制】 | | 少人数指導
一部教科担任制 | レ T・Tによる指導
その他 |
| 【研究教科】 | | 国語
生活
体育 | レ 算数
図画工作
理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | レ | 有 | 無 |